

インフルエンザがコロナで減った？



ある薬剤師さんが自分の勤務する薬局グループの抗インフルエンザ薬の今期の調剤状況を過去数年と比べたところ半分以上に減っていたという報告をされていました。その傾向は県の集計結果とも一致しており、コロナ予防対策が奇しくもインフルエンザに対して効を奏したようでした。

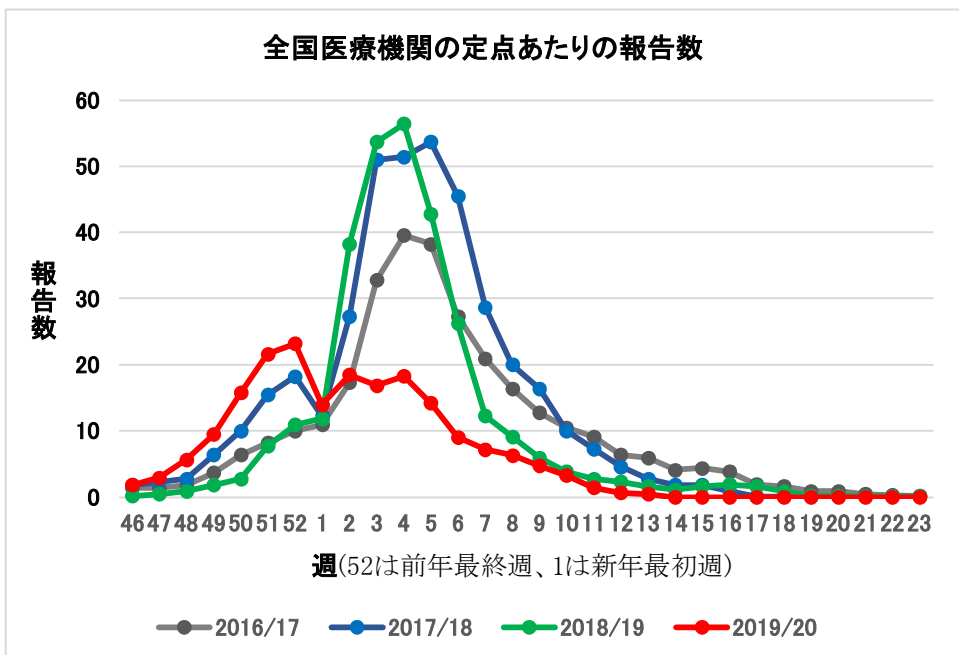
1) 感染症法のおさらい

人類は記録が残っていないだけで発生した時点から各種の感染症にかかってきたはずで、そのため絶滅した人類もいたでしょう。我々ホモ・サピエンスは各種の感染症に犠牲を払いながらも工夫しながら生き残ってきた人類と言ってよいでしょう。感染症は**個人**ばかりでなく**国の存在**をも脅かします。そのため感染症対策に法的な力を持たせて管理しようと作られたのが**感染症法**になります。現在、感染症法での感染症は危険度の高い順から**1類～5類**に分類されています。しかし新しい感染症が発生した時は、その危険度が分からないのでどの分類にして良いか分かりません。そこで**新感染症**や**指定感染症**という分類ができました。今、世界中で問題となっている**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)**は**指定感染症**に組み入れられ法的な管理下に置かれています。**SARS**もかつては指定感染症でしたが、今では2類感染症に位置づけられています。新型コロナウイルスもいずれ2類扱いになるのかもしれませんが。

2) インフルエンザ感染症の定点報告

インフルエンザは感染症法の**5類感染症**の位置付けになっており、全国約5,000カ所の内科小児科医と約500カ所の病床300以上の病院(これらの指定医療機関を**定点**という)から**週単位での報告**が義務づけられています。国立感染研究所のホームページには過去のインフルエンザ患者数の定点報告のグラフは掲載されていますが、具体的な件数が掲載されていなかったため、そのグラフから**(わざわざ!)**目算で読み取った値を使って過去4年間の推移を年度別のグラフにしてみました(下図)。

定点報告は**代表**医療機関からの報告数になるので、患者総数を表わしていませんから、その季節でのインフルエンザ患者総数はこの報告から**推計**した値となります。ちなみに**2018年から2019年**にかけての冬場(2018/19の**緑色線**)の感染患者**推定数**は日本全国で約**1,200万人**とされています。



3) 直近の冬場のインフルエンザ感染の傾向について

前図の2019/20赤色線を見ますと2019年の49週～52週(12月)はこの4年間の中ではハイペースで増加している傾向がみてとれます。1月(1週)に入ってから一旦落ち着くところは青線の2年前の状況に似ています。しかし2年前は1月に入ってから例年通り一気に患者数が増加していきますが、今年は減少の一途をたどっています(皆さんもそう感じておられたのでは)。

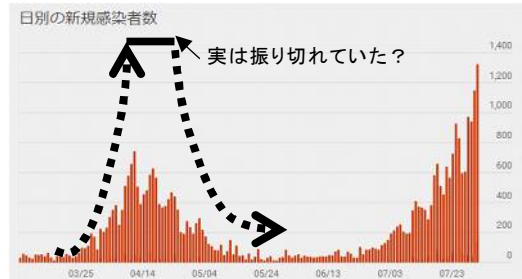
4) 何故インフルエンザ感染者数は減ったのか？

何故、減ったのでしょうか？まず考えられるのは序文で紹介した薬剤師さんが言っていたように**コロナ対策で徹底**して行われた**感染予防対策**です。**マスク着用、手洗い、うがいの励行**を基本として、さらにいわゆる**三密を避けた効果**が如実にインフルエンザ感染症では有効だったと考えられます。

その他、①**事前に実施されたインフルエンザワクチンの型が今年に限ってバッチリと当てはまった**からとも言えそうですが、12月では例年以上に増えそうな気配があった傾向を考えるとそうとも言えないようです。②**コロナウイルスがインフルエンザウイルスを抑制した**という**ウイルス競合説**もあるようですが、1ヶ月ほど前に報告されたコロナウイルス抗体の推定保持者が全体の0.1%でしかないということからコロナウイルスがインフルエンザウイルスを駆逐した状況はなかったと考えるのが妥当でしょう。抗体が1ヶ月で消えるという報告も0.1%という数値に反映しているかもしれませんが、私の浅薄な知識では既存の抗体再生可能なメモリーB細胞が少ないながらも残存するはずなので抗体は消えても、次にコロナ感染するとその抗体が出てくる人がいるのではないのでしょうか。さらに③**コロナ感染怖さによる受診抑制**があります。現に全国の保険薬局での処方箋受付数がこの間、激減したと聞いています。つまり**隠れインフルエンザ感染者**がいて1月から受診抑制で実質カウントされてこなかった可能性です。辛い思いをされた方々が、実はかなりいたのではないかと推察されます。

5) インフルエンザウイルスは減ってもCOVID-19は何故減らないのか？

2020年7月31日現在全国の感染者数は1,323人で、これまでの新規感染者数を右グラフに示します。累計感染者数は**34,371名**です。当初のピーク時よりPCR検査数が**かなり増加**したのが第2波の数値に反映しているようですが、当初の死者数が今より7倍近く多かったことを考慮すると**第1波の感染者数は今よりも何倍も多かった**と思



わせ(黒点線)、緊急事態宣言の荒技がしばらくの間だけ感染者数を激減させたと思えます。またコロナ感染者数はインフルエンザ感染者数の推計1,200万人より遙かに少ないと思っはいけないでしょう(コロナでは推計の基になる正確な数字が出せていないのが実態なのでから)。さらにコロナウイルスの次のような**いやらしい性格**が我々を混乱に陥れているように思えます。**潜伏期の長さ**(発見が遅れる)、**若年者に無症候が多い**(感染拡大につながる)、**高齢者ほど重症例が多い**(むしろ当たり前)、**重症化への期間が短い**(医療体制に響く)、**いくつもの後遺症がある**(単なる呼吸器疾患ではなく全身性疾患。若年者も安心できない)、**少しでもスキを見せると感染してしまうえげつなさ**(インフルエンザではかなり有効であったマスク、手洗いの徹底はコロナでも有用そうだが、緊急事態宣言状態にでもしないかぎり感染拡大する)、**夏でも感染してしまう季節感の無さ**(当初から南半球でも感染していたので予想はついた)、**抗体が直ぐに消える**(おそらく見かけだけか)、**亜型の存在**(感染力や毒性の違いに関与)等。

いずれにしても、インフルエンザウイルスにはある**治療薬やワクチンが無い**ことが、コロナウイルスに好き放題させている印象があります。それらの対抗策が早くできることを祈りつつ、我々はその時期が来る迄、**経済活動を維持しつつ自己防衛で待つ**しかなさそうです。(終わり)